

市民の皆さんに知ってほしいこと

川崎市障害者社会参加推進センター



- ◇点字ブロックの上に物が置かれていることがあります。また、点字ブロックの上で立ち止まって話をしている人がいたり、白杖を持っている人が横断歩道を渡ろうとして、立ち止まっていることがあります。

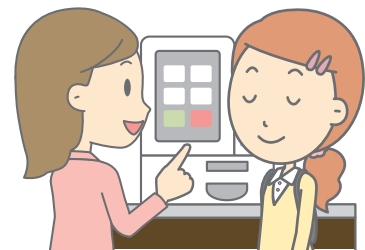


視覚障害者は、点字ブロックを白杖や足の裏で確認しながら歩きます。点字ブロックには線で方向を示すブロックと突起で注意箇所を示すブロックがあります。

視覚障害者は自動車の接近や信号の色が見えません。信号機がない交差点、音声案内のない信号機のある交差点では、渡って良いタイミングを知らせてくれると安心して横断できます。

- ◇タブレットでの注文やセルフレジなど、サービスのデジタル化が広がっています。

デジタル画面は、視覚障害者のための音声操作に対応していないことも多く、また、画面での入力が難しい人もいますので、目の見える人が代行してくれたり、デジタル入力に限定せずに対応してもらえると助かります。

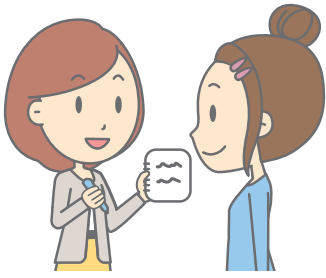


- ◇白杖を持っている人がスマートフォンを操作していると、不審に見られてしまうことがあります。



視野の中心部が見える弱視の人はスマートフォンの画面を見て操作できることがあります。また、目が見えなくても音声読み上げソフトを使用しスマートフォンを操作する人もいます。

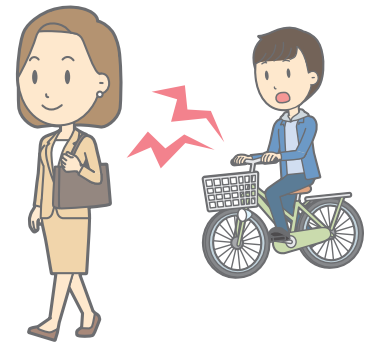
- ◇筆談を依頼すると「時間がない」と言われたり面倒くさそうな対応をされてしまうことがあります。



聴覚障害者には、全く聞こえない人と、聞こえにくい人がおり、手話や筆談がコミュニケーションの手段となります。短い文章でいいので、嫌がらずに筆談での対応をお願いします。短時間で終わります。

- ◇道を歩いている、車のクラクションや自転車のベルに気付けないことがあります。

車のドライバーや自転車に乗る人は、歩行者の中には聞こえない人がいるということをご理解下さい。



- ◇聴覚障害者標識



この標識が付いた車は、運転者が聴覚障害者であることを示しており、この標識が付いた車に対する幅寄せや割り込みは、道路交通法で規制されています。

この標識が付いた車の運転者は、クラクションやサイレンの音に気付けないことがありますので、配慮をお願いします。

- ◇聴覚障害者や難聴者は、マスクをしたまま話しかけられると、何を話しているのか分からないことがあります。

多くの聴覚障害者や難聴者は、聞こえを補うために相手の口元の動きを見ながら言葉を読み取っているため、マスクで口元が見えない時には筆談やメモ書きにして分かりやすく伝えてほしいです。



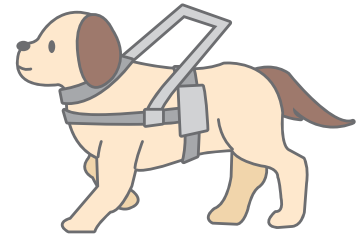
- ◇難聴者であることを相手に伝えると、耳元で大きな声で話されることが多いですが、大きな声で話されても必ずしもよく聞き取れるわけではありません。



「感音性難聴」という障害を持っている人は言葉の明瞭度が低下し、はっきり聞き取れないため、大きな声でも話の内容を理解できないことがあります。そのため、特に感音性難聴の人には筆談やメモ書きで対応いただく等の配慮をお願いします。

- ◇補助犬（盲導犬・介助犬・聴導犬）にご理解をお願いします。

補助犬は、公共の施設や交通機関、デパートやスーパー、飲食店などの不特定多数の人が利用する施設に入ることが出来ます。補助犬に対して、触る、声をかける、見つめる、食べ物を与えるなどの集中力を切らすようなことはしないで下さい。



ほじょ犬マーク▶



- ◇買い物中に通路に商品が置かれていることがあります。



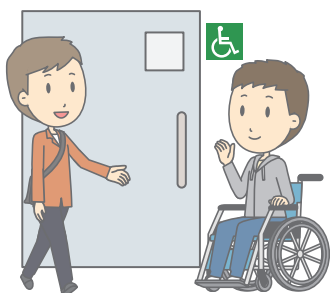
車いすの人や杖を使用している人、マヒのある人等、障害によって運動動作が不自由な部位は人それぞれ違うので、幅の狭い通路で通れなかったり、段差で転びやすい、傾斜で思うように歩けない等で困っている人がいましたら、配慮をお願いします。

- ◇エスカレーターでは歩かないで下さい。

片マヒの人や片腕が不自由な人は、不自由ではない側の手でベルトにつかまりますので、エスカレーターの右側につかまって利用することもあります。また、介助者が必要な場合もあります。エスカレーターを使わざるを得ない障害者がいることをご理解下さい。



◇車いす用トイレを一般の人が使用して、利用できないことがあります。



車いす利用者は、段差がなく広いスペースがあるトイレにし
か入れないので、思いやりの心を持って利用に配慮をお願い
します。

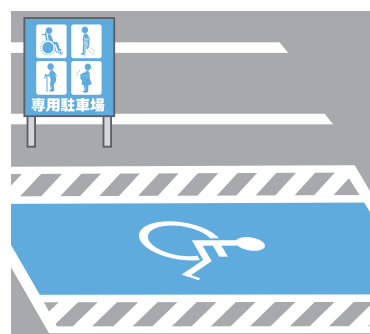


◀国際シンボルマーク

◇障害者用駐車スペースに一般の車があって駐車できないことがあり
ます。

車いすドライバーは車から乗り降りするのにドアを全開
にする必要があるため、通常よりも広い駐車スペース
が必要になります。

車いす利用者以外の方はこのスペースを利用しないよ
うご協力をお願いします。



◇車いすでバスに乗降する時には時間が掛かることをご理解下さい。



車いすでバスに乗降する場合、運転手がスロープを設置して
車いすのスペースに固定するのに時間が掛かりますが、運転
手のアナウンスはほとんどありませんので、時間がかかるこ
とをご理解下さい。

見た目では分からない障害のある人もいます

◇多機能トイレを使用して出てきたら、「あなたはこのトイレを使用し
ても良いのですか」と言う様な目つきで見られたり、言われたりする。

オストメイト（人工肛門・人工膀胱の造設者）は、外見上
は障害者とは分かりませんが、排泄物を溜める袋（パウチ）
の交換・装着等のため多機能トイレを利用する必要があります。

「オストメイトマーク」のストラップについても皆様に知っていただきたいです。



◇オストメイトの温泉等での入浴にご理解下さい。



オストメイトは温泉や銭湯等で裸になると、排泄物を溜める袋（パウチ）が現れますが、オストメイトの人は常に清潔を保ち、漏れ防止に万全の処置をするためのマナー指標が設けられており、そのルールの遵守が徹底されていますので、過剰な反応はしないよう配慮をお願いします。

◇電車等で障害者の優先席に座っていると変な目で見られます。

透析患者の困りごとは、見た目ではわかりません。腎臓の働きが何らかの原因で悪化し末期になると、人工透析が必要になり、それは生涯続きます。透析患者は見た目には普通の健常者と変わりません。透析のあとは血圧が極端に低下し立っていただけません。激しい運動はできず、体力的にも疲れをすぐ感じます。



◇通勤等が困難で、長時間労働ができません。



透析患者は疲れやすく体力的にも持続性がないので、無理のない範囲で活動ができるよう、配慮をお願いします。

◇何か言われても言葉の理解ができにくく、トラブルに巻き込まれることがあります。

知的障害者は会話や難しい言葉が理解できないことがあり、社会のルールが理解できないことがあります。短く、ゆっくりわかりやすい言葉で話しかけたり、「はい」や「いいえ」で答えられるような質問をして下さい。



◇初めてのことやいつもと違うことが苦手です。



本人の慣れていないことをしようしたり、見通しがもてないときに不安になります。行動が遅くても、やさしく見守って下さい。本人のペースが大切にされると、心の安定につながります。

◇話しかけられても上手に答えられないことがあります。

発達障害の人は、聞くことや話すこと、読むことや書くこと、人それぞれ苦手なことが違います。本人の正面からゆっくりとわかりやすい言葉で話しかけて下さい。イラストや写真など視覚からの情報はわかりやすい傾向があります。



◇静かな場所で大声を出したり、歩き回ったり、急に立ち止まったり、泣き出したりしてしまうことがあります。



周りの人たちには突飛な行動に見えても、本人は、自分の気持ちが落ち着かない時に自分の声で平静を保とうとする行動だったり、周囲の状況が理解しにくく、自分が何をしてもよいか分からず起こる行動もあります。気持ちが落ち着ける場所に移動させたり、優しく声をかけたり温かく見守って下さい。

◇忘れ物や約束を忘れてしまうことが多いです。

発達障害のある人の中には、よく忘れものをしてしまう人がいます。周囲の人が協力して、確認や約束事を一緒にチェックする習慣を作ったりするなど、本人の注意集中を支援できる環境を用意することにご協力下さい。



◇マスクをつけることが苦手です。



知的障害や発達障害のある人は、感覚過敏（触覚・嗅覚・味覚等）の人が多く、マスク等の着用が困難な状態にある場合があります。

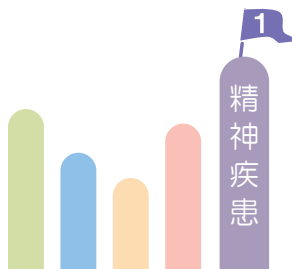
このような障害特性のため、マスク等の着用が困難な人に対する皆様のご理解をお願いします。

◇精神疾患（こころの病気）はだれでもなる可能性のある一般的な病気です。

過去に政府が発表した「こころのバリアフリー宣言」では、過去1ヵ月以内にストレスを感じた人は2人に1人、生涯を通して精神疾患にかかる人は5人に1人とされています。



◇精神疾患が「5大疾病」であることをご存知ですか。



現在、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病に精神疾患を加えて「5大疾病」とされています。5大疾病のなかで、精神疾患の患者数が一番多く、現在、400万人を超えています。

◇薬の影響やストレスで疲れが出やすいが、自分からは言い出せません。

精神障害の人は見た目ではわかりませんが、当事者はとても周りのことを気にしていて、些細なことでも具合が悪くなったりします。休憩場所を確保したり、その人のペースを大切にしてください。



◇幻聴や妄想に襲われることがあります。



精神障害の人は、本人の困っていることを確認して、気持ちやペースを大切に扱ってもらえると、安心します。やさしく温かく見守って下さい。

◇作業などを頼む場合は、長時間作業は避けるようにして下さい。

統合失調症など、精神疾患を持つ人は、見た目には健康そうですが、一般に長時間の継続作業が苦手です。一定時間（1～2時間）ごとに休憩を取るなどの配慮をお願いします。



障害者に関する様々なマーク・標識



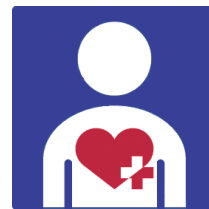
ヘルプマーク

外見からわからなくても援助や配慮を必要としている人が、周囲に知らせるものです。



身体障害者標識
(四つ葉のクローバーマーク)

肢体不自由者が運転する自動車に貼る標識で道路交通法に定められています。



ハート・プラスマーク

内部障害・内臓疾患を示すマークとして特定非営利活動法人ハート・プラスの会が提唱しています。



シルバーシート・優先席

日本の鉄道車両やバスなどに設置されている高齢者や身体障害者などの着席を優先させる座席のことです。

発行元

川崎市障害者社会参加推進センター

(公益財団法人 川崎市身体障害協会内)

住所：〒210-0834 川崎市川崎区大島 1-8-6

TEL：044-246-6941 FAX：044-246-6943